

テーマ名：脱炭素社会実現に貢献する省エネルギー型内塗装技術開発

助成事業者：パナソニック ホールディングス株式会社

開発フェーズ
実用化3年

関連する「省エネ技術戦略の重要技術」
加工技術

開発期間における助成金額
1億円未満

対象技術の背景

近年、地球温暖化防止の観点から塗装技術分野では、従来から意匠性は落とさず、より省エネルギー（二酸化炭素排出量削減）な塗装技術の開発が望まれている。

テーマの目的・概要

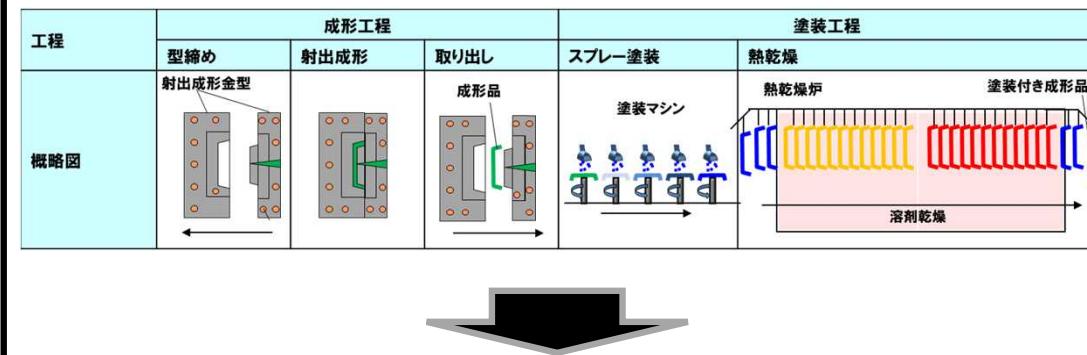
本事業では、上記課題解決のため成形工程で塗装完結できる型内塗装技術において、汎用性を向上させる技術開発を推進し、省エネルギー性、コスト合理性、意匠性を満たす次世代塗装技術として、自社および他社製品へ適用可能な型内塗装技術を目指し、脱炭素社会実現に貢献することを目的とする。

省エネ効果量（国内）
(原油換算)
2040年
5.2万kL/年

見込まれる成果

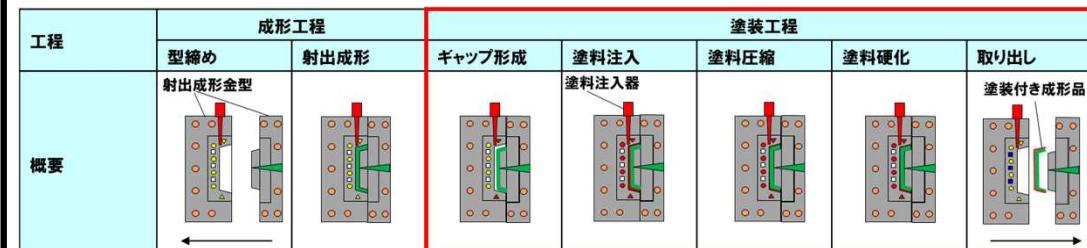
開発技術の導入で従来技術に対し、塗料中の溶剤の熱乾燥が不要となり約90%程度の省エネ効果が見込まれる。その他、塗料ロス削減、工程数削減による省人化、溶剤レス塗料によるVOC削減の効果も見込まれる。

従来技術：スプレー塗装



技術開発部

開発技術：型内塗装



省エネ技術開発のポイント

本開発は、型内塗装技術において塗料厚みの薄膜化、商品適用検証等に取り組み汎用性向上を目指すものである。